

Article 未来を読み解く 体験型エンタテインメント⑥

— 2069 年からの手紙 —

Experiential Entertainment Predicts the Future (6) — Message from 2069 —

竹内 ゆうすけ 合同会社ラ・シタデール
Yusuke Takeuchi LA CITADELLE LLC.
<http://lacitadelle.jp/>

Keywords: ARG, alternate reality game, cryptogram, decryption.

1. はじめに

2018 年の人工知能学会誌では、「未来を読み解く体験型エンタテインメント—2069 年からの手紙—」と題して会員の皆様へ暗号解読をゲームとしてお楽しみいただきました。連載の最終回となる本稿では、前号で届いた未来からの“最後の”メッセージを解説します。

2. 前号の解説

前号の学会誌が届いた 2018 年 11 月 1 日、この連載で毎回登場している 2069 年の人工知能研究者「サクミ・ミハル」博士とやり取りができる LINE アカウントから、新たな情報を送ったというメッセージが届きました。博士の求めに応じていくと、前号で示された黒く塗り潰されて読めない「卒業文

集」(図 1) を読み解く手掛かりを得ることができました。

卒業文集を読み解く方法として博士が示したのは、9 月のミッションでも使用した「断片化修復システム」という名前の LINE アカウントでした。断片化された未来の社説記事を修復した 9 月のミッションでは、「記事に含まれるキーワード」に反応して記事の欠片が入手できる仕組みでしたが、同じアカウントに「卒業生の名前」を送信すると、その人物が卒業文集で書いた文章

卒業後は David とサクミ・ミハル研究室を立ち上げ本格的な研究の道に入る。政府ポイントを利用すれば衣食住の不安はなく、食事と睡眠以外の時間をすべて人工知能研究に充てられる。人工知能の歴史に残るような業績を残せるよう精進していきたい。

Sakumi Mihar

図 2 断片化修復システムへ「Sakumi Mihar」と送信すると入手できたデータ



図 1 前号に掲載した写真は黒塗りにされた卒業文集だった

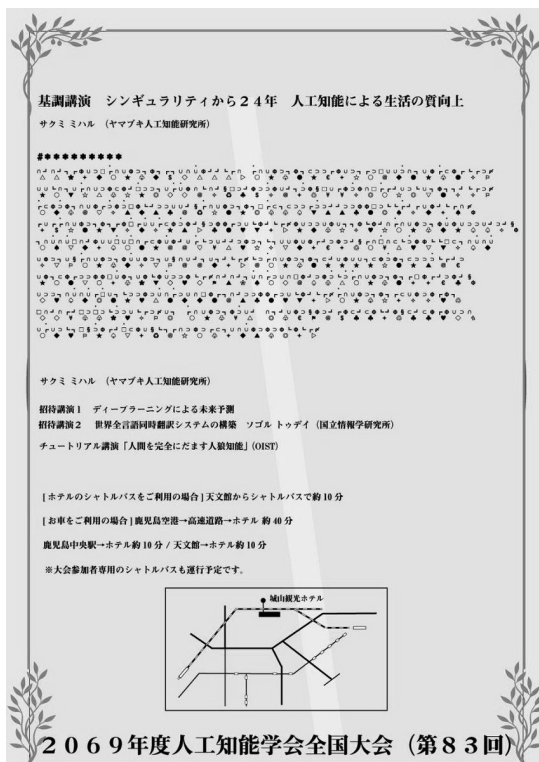


図 3 5 月のミッションを解読すると入手できたポスターの画像

のデータを入手できました(図2)。

前号に掲載されていた写真でフルネームが把握できたのは「Sakumi Miharū」ただ一人でしたが、入手した文章に書かれた情報から芋づる式に「Haruhara David」, 「Minayoshi Mabin」, 「Ehara Maki」の氏名が特定できる仕掛けでした。「Sogoru Today」のみ、5月のミッションで暗号解読した2069年の人工知能学会全国大会ポスター(図3)に国立情報学研究所の研究者として掲載されている名前と照合しなければ判明しない仕掛けでした。

博士の求めに応じて、氏名を特定できる5名の同窓生の中で唯一の女性である「Ehara Maki」の願い「犯罪の根絶」を博士のLINEへ送信するとゲームクリアでした。

しかし、11月のミッションにはゲームでいう「裏ルート」も用意されていました。その手掛かりは、断片化修復システムへサクミ博士以外の四人の名前を入力した際に文集データと一緒に送られてくる4分割されたQRコードでした。このQRコード(図4)を完成させてアクセスすると、「断片化修復しすてむ」という断片化修復システムとは異なるLINEアカウントと友だちになることができました。



図4 「断片化修復しすてむ」へつながるQRコード

なお、このQRコードは学会誌の表紙左下スミにも掲載してありましたので、こちらから直接アクセスした方もいたようです。

新しく発見された「断片化修復しす



図5 前号の学会誌表紙

てむ」へ5名の同窓生の氏名を送信すると、別の文集データを得ることができました。「裏ルート」で得られるテキストは、人工知能の発達により高度化した社会の陰の部分の反映したものになっていました。博士に求められた「Ehara Maki」の願いも「犯罪の根絶」から「プライバシーという概念の根絶」へと変わり、博士のメッセージも若干変化する仕組みでした。

Twitterハッシュタグ【#AI2069】を通じて進んだ解読プロセスは、これまでと同様にTogetter [Togetter 18]でまとめられています。

3. おわりに

11月号のミッションには、明確な終わりはありません。サクミ博士は、2069年からもたらされた未来の有り様をユートピアと感じるか、ディストピアと感じるか、ミッションに参加した各人が考え、その結果を発信することを最後に求めます(図6)。

私達の時代は結局シンギュラリティに達しないまま2019年を迎えました。しかしサクミ博士が伝えてくれた未来の社会は遠い未来のことではないかも

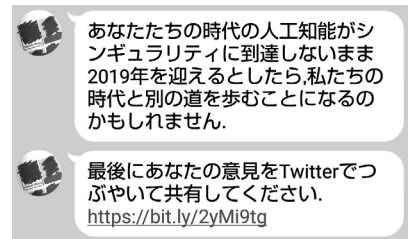


図6 サクミ博士からの最後のメッセージ



図7 サクミ・ミハル博士のLINE登録用QRコード

れません。サクミ博士のLINEアカウントは2019年にも残っていますので、よろしければ上記のQRコード(図7)からサクミ・ミハル博士とLINEで友だちになりミッションを追体験したうえで、皆様の意見を表明してみてください。また、他の人の意見をTwitterでハッシュタグ【#AI2069】を通じて見てみるのも良いかもしれません。

◇ 参考文献 ◇

[Togetter 18] 人工知能学会誌2018年11月号に掲載された「未来の卒業文集」修復プロセスと反応まとめ(2018) <https://togetter.com/li/1297298>

2018年12月11日 受理

—— 著者紹介 ——



竹内 ゆうすけ

合同会社ラ・シタデール代表、NPO法人国際ゲーム開発者協会日本代替現実ゲーム専門部会正世話人。